



建築設備技術遺産

認定第 21 号 インダクションユニットとその技術資料

管理者:新日本空調(株)技術本部

所有者:新日本空調(株)

インダクションユニットシステムは、ユニットごとに個別温度制御と新鮮空気の導入が可能な多室空調方式として、1900年代初期に米国のキャリアー博士により開発され、ニューヨークをはじめ世界の主要都市の高層ビルや大型ビルで数多く使用された。我が国には戦後、東洋キャリア工業株式会社により導入され、昭和26年にはプリヂストンビルディングに採用され、その後も日本初の超高層ビル霞ヶ関ビルなど時代を代表する数多くの大型ビルに導入された。しかし、昭和40年代後半からは、床等の防火区画を貫通するダクトや配管の防火対策の法規制が強化されたため、多くのダクトが床貫通する当システムは採用されなくなった。

今回申請された、昭和26年竣工のプリヂストンビルディングに設置され稼働していたインダクションユニット本体と設計手法を含む総合技術資料は、日本のビル空調の普及拡大期を代表するインダクションユニット方式を後世に伝える貴重なものであると認め、建築設備技術遺産として認定するものである。



コンジット・ウェザーマスター外観



インダクションユニットの技術資料